

総務委員会 県内調査活動状況

- 1 調査日 令和元年10月30日(水)
- 2 出席委員(9名)
委員長 乙黒 泰樹
副委員長 大久保 俊雄
委員 桜本 広樹 早川 浩 杉山 肇 臼井 友基 山田 七穂
卯月 政人 望月 利樹
- 欠席委員 鈴木 幹夫
- 地元議員 水岸 富美男

3 調査先及び調査内容

(1)【南都留合同庁舎】

○調査内容(主な質疑)

問) 災害発生時、ここはセンター所長を本部長とする地方連絡本部になるということだが、昨今、大規模災害が発生している中で、本部の停電が問題となっている。72時間、3日間という、この間の電気をどのように確保していくかということ、千葉県においては燃料の備蓄がなかったことが問題となったが、この建物では、どのような対応をしているのか。

答) この庁舎の防災機能についてであるが、非常時における電源の確保として、非常用の発電装置が3日分稼働するような設備を整えている。また、この庁舎は、通常よりも耐震性能が強化されており、防災新館は通常の防災機能の1.5倍の機能を有しているが、それと同レベルの耐震機能を備えている。

それから備蓄であるが、簡易トイレや食料などについては、必要な量、資材を整備しているという状況である。

問) 太陽光発電など再生可能エネルギーについて、太陽光発電で発電した電気は、この庁舎で使われたり、備蓄の蓄電器にためて使うと、そういう理解でよいか。

答) 非常用の発電装置を1つ屋外に設けており、それを緊急時に稼働することになっている。そして、太陽光発電については、日ごろの電気や空調などといったものに使っている。

問) 合同庁舎の特徴の中で、障害をお持ちの方に優しいとあるが、視覚障害者に対して、各地域の合同庁舎では、例えば入り口でピンポン、ピンポンという音声案内や、点字ブロックなど、我々が幾つかの合同庁舎に提案して導入してもらった。この庁舎ではそういったものが見当たらなかったが、どうなっているか。

答) さっき入っていただいた玄関のところに、点字ブロックはしっかりと整備している。ただ、委員指摘の音声ガイドのような機能はない。

また、前の庁舎にはなかったが、今回整備したものとしてエレベーターがある。エレベーターは障害のある方にも使っていただいております、その点では、バリアフリー化が進んでいる。

問) 富士吉田合同庁舎にはピンポン、ピンポンという設備があり、ここにはないと少し格差があると思う。検討していただきたい。

答) 貴重な御意見ありがとうございます。

問) 9月の委員会でも本庁舎について質問したが、この庁舎では、電気自動車の充電設備を備えていないのか。観光面、防災面でも必要な設備ではないかと思う。

答) こちらの庁舎では、充電設備等を備えていない。今後検討していきたいと思っている。

問) エレベーターはバリアフリーに有効な手段だと思う。建物が縦長で、各フロアに1つずつ事務所が設けられており、来庁者は当然エレベーターを利用するが、省エネという観点から、このエレベーターの利用について、職員はどうしているのか。

答) まず、この建物の構造であるが、前の庁舎はよく見られるような教室方式であり、長い廊下があってそこに部屋がそれぞれ設置されているというような構造だった。この庁舎は、センターコア方式と呼ばれるが、トイレや水回りを中心に執務室が取り囲むということで、動線としては非常に流れがよくなっている。廊下を行ったり来たりしなくて済むということで、その点は非常に配慮されている。

職員のエレベーター利用であるが、もちろん来庁者をまず優先するという考え方である。庁舎は4階までであるので、来庁者が使わない場合には、職員が使うという形をとっている。

問) 先ほどから、利便性について質問が出ていた。ここは新しくできて数カ月なので、当然、前の庁舎に比べて利便性が上がっているのは確かだと思うが、これから近隣の方や働く職員の利便性について、多分いろいろな課題も出てくるだろう。できるところは改善して、ここがすばらしい庁舎になればと思う。

旧庁舎から完全に移転したが、旧庁舎はもう既に都留市に引き渡されているのか、その辺を確認したい。

答) 引き渡しは既に完了しており、土地の所有権移転の登記も完了している状態である。

問) 職員の通勤についてであるが、ここに庁舎ができて、職員の駐車場のスペースも確保されているが、駅が近くなったことで鉄道も利用しているのか。職員の通勤の状況はわかるか。

答) まず、この庁舎の職員数であるが、臨時職員等も含めると150名ほどいる。そして、4月の時点で、車で通勤する者が120名ほどいる。

駐車場については、前の庁舎の駐車場は203台を駐車できた。今回、非常に面積が狭くなっているが、都留市から職員の駐車場用地として3,000平米を無償で借りている。そこは120台分ぐらい駐車できる。敷地内立体駐車場と平面駐車場を合わせると89台分あるので、120台と89台を足して、209台分の駐車場が確保されているということで、駐車場自体は前の庁舎と遜色なく整備されている。

問) いずれにしても、今までずっと地域の飲食店や地域のイベントで駐車場として利用して

いたところを、今度は職員の駐車場ということで、地域の人たちも承知だと思うが、当然この職員の駐車場というのも大事だが、当然ながら地域に配慮できるものは配慮しながら、地域の人たちに歓迎される庁舎になればと思う。

問) 再生可能エネルギーでは、太陽光はオーソドックスだが、地中熱は合同庁舎では初めてということである。ちょっとイメージが湧かないので、簡単に説明いただきたい。

答) 地中熱は、地下10メートルぐらいから下のほうは一定温度が保たれており、温度はその地域の平均気温と大体同じぐらいで、甲府で16度、都留で14度ぐらいということである。その地中熱を使ってエネルギーとしていくのが、地中熱のシステムである。

具体的には、この庁舎では、空調の熱源として使っている。広くなったロビーの部分や階段室の部分、共有部分については、地中熱の空調システムを取り入れている。

冬の暖房については、この辺りだと、外部は0度ぐらいになる。地中熱が14度ということだと、地下水も地中熱と同じぐらいの温度だということ、14度の地下水がここを流れている。この屋上にヒートポンプ、それから熱交換器が備えつけられているので、その地下水をポンプアップし、14度ある地下水から熱を吸収していく。そして、それを動力として空調に使っていくというのが、地中熱の空調システムである。

夏は、外気が38度ぐらいになる。外気を使ってそれを熱源にするとすると、空調の室外機が一般家庭でもあると思うが、室外機から熱風が出てくる。あれは38度よりも50度ぐらいにして暖かくしないと、熱として上から下へという特性が生かされないということで、ぐんと50度ぐらいまで温めるそうである。そして、外へ出すというのが通常のアパートシステムであるが、それを地下の14度、15度の地中熱を熱源として使っていくことによって、かなりの削減効果があるというものである。

問) これは盆地でも十分使えるぐらいのものなのかということと、あと、必要な総量のうち地中熱は何%ぐらいなのか。

答) 私が財産管理課長として2年前にいたときに情報を得たものであるが、このシステムについて、当時、富士山科学研究所で取り入れたという事例があった。国中についてはデータを把握していない。

答) 設計段階においては、年間の大体14%程度を太陽光と地中熱で賄えるということ、削減率としては大体年間で14%程度だろうと考えている。



説明、質疑の後、庁舎内の視察を行った。

(2)【意見交換会】

①出席者 山梨学院大学外国人留学生の方々

②内容 「外国人留学生に選ばれる山梨について」

○主な意見

議員) 山梨県を非常に愛していただいていることに関して、非常にありがたく思う。自然が豊かなところで、都市部と違って非常に犯罪も少ない。安心して勉強できる、生活できる地域だと思う。その中で、それぞれ皆さんは何年かいるわけだが、どんなアルバイトをしているのか。また、そのアルバイトを通じて、例えば、飲食業、製造業というように、どんなアルバイトで、その中で何か感じたことがあれば教えていただきたい。どんなアルバイトをしているのかが1点。そしてアルバイトで気づいたこと、その2点を答えていただきたい。

出席者) 日本に来て、最初はコンビニでアルバイトをしたことがあるが、今は論文を書くのに精いっぱい、アルバイトをしていない。でも、この前、ちょうど桃とブドウの時期に、桃屋とブドウ屋でアルバイトをした。忍野八海では、中国人など外国人にいっぱい売れる。日本語と英語と中国語を活用して、桃とブドウを売った。
アルバイトをして意識したことは、人間は人間、そのままの人間として、国籍は問題じゃないと思う。

出席者) 山梨は長いので、いろいろなバイトをしている。日本語のレベルに応じて、バイトの内容は全然違う。最初は、日本語が全然要らない場所だった。部品工場で働いて、その後はサイゼリヤなど飲食店で働いて、今は中古買い取りの店で働いている。結構、山梨は田舎と言われるが、中古買い取りの品物では、高級品がいっぱいある。意外に山梨の人は金持ちである。今まで、バイト先のみんなが優しいから、問題点は特にない。

出席者) 現在はファミリーマートでバイトをしている。山梨に3年間ぐらいいるが、主にコンビニでバイトしている。この前は、学校の就職キャリアセンターでもアルバイトをしていて、バイトで気づいたことは、中国とはサービス業のスタッフの態度がちょっと違うということ。日本のサービス業はお客様が神様というぐらいのサービス精神がある。普通はいないが、もしお客様が無茶苦茶なことを言ってきても怒らない。だから、自分もふだん客として店員さんに笑顔で接したり、関係もよくしたほうがいいのかと思っている。

出席者) 9月に日本に来たばかりである。先輩が紹介してくれて、10月からコンビニでアルバイトをしている。いろいろなことで、店長は優しくしてくれる。さっき何さんが言ったように、中国と日本ではサービスが違う。いろいろ小さなところに注意しなければならない。例えば、お客様が買ったものは温かいものと冷たいものに分けて袋に入れるとか、いろいろ小さなことを覚えなければならない。でも、もうなれた。これからは多分コンビニでアルバイトをする。

出席者) 私は、最初、日本に来たときは日本語が余りしゃべれなかった。日本語に弱い。日本語を上達したいので、2017年5月から今までの2年9カ月ぐらい、イオンのレジで接客業を経験している。接客業はいろいろなお客様と話す機会が多いので、話す

ことと聞くこと的能力も上達した。それから、レジの接客業では、お客様の状況によって臨機応変の対応能力も必要である。アルバイトでお客様の問題を解決できたとき、それはとてもうれしい。非常に役に立ったという感じがする。お客様からありがとうと言われたときも、すごくやる気が出る。

今、1社から内定をもらっている。ホテル業界である。スーパーでアルバイトをして、人と話すことが好きになった。旅行のとき、ホテルのスタッフの笑顔での対応と親切さを感じた。ホテル業界は憧れだった。

出席者) 私は日本に来てから今まで、同じバイトをやっている。2つあるが、1つはファミマのコンビニ、あと1つはウエルシアの薬局で、バイトの内容は大体同じである。レジと接客と品出し。感想としては、日本に来たばかりで日本語が余り通じず、しゃべることもできなかった私は、コンビニに入っているいろいろ覚えることが多くて、でも店長はとても優しく教えてくれたので、それは一番感謝というか、ありがたいと思う。あと、薬局も店長は優しい。多分、私は、人間に恵まれていて、スタッフなどもみんなとても優しい。スタッフは、ほぼみんな山梨出身の人なので、いろいろ山梨県のことも教えてくれた。

あと、接客の中で感じたのは、お客さんが優しい。私の友達は大阪でコンビニのバイトをやっているが、お客さんがいろいろ言ってきて、外国人もいろいろな国から来るので、おかしい人も多い。しかし、日本のサービスは過剰サービスだから、そういうときには我慢するしかない。でも、私は山梨県で余りそういう人に会ったがことない。おじいちゃん、おばあちゃんはとても優しくしてくれた。聞かれたときにわからなければ、日本人の先輩などを呼んできて手伝ってもらおう。スタッフもお客さんも、いろいろとても優しくしてくれた。

出席者) 同じくウエルシアで働いた。もう一つのバイト先は、個人の飲食店で働いたが、そこで感じたことは、ここの人がとても優しかった。あと、個人の店だから、よく季節になると、例えば、夏だったらごぼうとか、今の時期だったらカキとか、たくさんもらえた。ウエルシアのほうもみんな親切で、一緒に働くのは楽しいという感じだった。前はライフで1年間働いたことがある。そこでもサービス業のことを教わった。どんなサービスが一番いいかという授業もあったので、サービス業のバイトに入った。

出席者) 私は、去年から今まで、ずっとマクドナルドでアルバイトをしている。その前はアルバイトをしたことがなかった。店長がいつも言っていたのは、「マクドナルドのルールを守ってください」、そして、「食品は大切だよ」ということ。ものすごく感じたのは、本当に厳しいということ。また、先々週に台風が来たとき、マネジャーは店の状況を確認するために来ていた。そのとき、日本人の責任感は本当に強いと思った。

出席者) 先程言ったとおり、自分は日本語の勉強をしたくて、日本に来てから日本語の勉強を始めたが、友達や先生から、バイトを始めたなら日本語がうまくなるよと聞いて、いろいろなところでバイトを始めた。今はローソンで働いている。

日本に来て一番びっくりしたのは、バイトに入る前に必ずオリエンテーションを1週間ぐらいやること。その中で、始まる前に必ず手を洗うとか、靴をきれいにする。服装なども決まっているので、それでびっくりした。2番目は、袋やストローを使い過ぎということ。バイトのときも外国人が結構来て、ストローとか袋とかは要らないですよと言われるが、日本人のお客さんは「分けてください」とか、しっかり言うてくる。子供ではないし、首も痛くないのに何でストローを使うのかと思った。最初は、「えっ」と思ったが、今はそれが日本の文化かなと思って理解している。次にびっくりしたのは、韓国は社長やバイトする人たちが王様というか、例えば、お客さんが変

なことをしたら「出て行ってください」みたいなことを言う。日本は、やはりサービス意識が高いので、「済みません」から始まって「済みません」に終わる感じで、「ああ、なんで」と逆に思った。韓国でバイトをやったときは、「出て行ってください」みたいな話は結構強目に言うが、日本では「済みません、済みません」と言う。自分が済みませんと言うようなことをやってないのに、何で済みませんと言うのか、それがびっくりした。

でも、日本で一緒に働いている人たちは、本当に優しいし、知らないことを聞くと、見せながら教えてくれたりするので、それでやっぱり日本で就職したいなと思った。たまに変なお客さんはいるが、一緒に働いている人たちは優しいし、もうちょっと頑張れという話をしてくれるので、それで頑張れる気持ちを持って、日本で続けたいなと思った。

出席者) 私は、日本に来てから今まで、幾つかバイトをやった。最初はやっぱりみんなと同じで、日本語のレベルが弱く、あまり日常会話もできなかったので、一番簡単だったのはコンビニと工場だった。1年生から今までファミリーマートで、他の留学生と一緒にバイト先である。

やはり最初は会話が理解できなくて、接客もなかなか大変だった。でも、店長と一緒にやっている人たちが優しく教えてくれたので、今は全く問題ない。桔梗屋の工場で少しやったことがあり、1年間ぐらいやった、工場が移動のため遠いところになったので、私はやめて、スターバックスでアルバイトを始めた。スターバックスでやってみて、いろいろレシピなどもそうだが、接客、あとプロモーションも多過ぎる。最初は大変だったが、先輩たちやマネジャーの方が教えてくれて、本当に感謝の気持ちばかりである。

1年半ぐらいスターバックスでバイトをしたが、3年生になってゼミも勉強も忙しくなるので、スターバックスをやめた。今、大学の図書館と学校の学生スタッフとして、オープンキャンパスや面談、1年生を指導する仕事といったこともやっている。バイトでいろいろ経験して勉強にもなった。やっぱり留学生だったら、異国で生活してバイトすることは成功する鍵だなと思っている。

出席者) ことしの9月に来たばかりなので、アルバイトはしていない。中国では、学生たちはアルバイトをしないので、日本で体験したいと思う。でも、どうしたらいいかわからない。

出席者) 私は、近くのコンビニでバイトしている。まだ、1カ月ぐらい。バイトしてよかったと思う。店長は優しいし、みんなと同じように、会話で日本語も上達する。時には、やめたい気分になる。変な客は大変だと思うが、みんなが優しくしてくれるので我慢しようと思う。

議 員) 1つ質問して全員に答えていただくと時間がかかってしまうので、これからはフリートークで質問をする中で、積極的に手を挙げてもらえるとありがたい。では、何か質問を。

議 員) 2つ質問をさせていただきたい。なぜ、日本を選んだのか。そして、もちろん自分の国に帰る方もいるかもしれないが、その中で、なぜ帰らずに日本で、あるいは山梨で就職をしようと思ったのか。その2つを教えてほしい。なぜ、日本を選んだのか。そして、なぜ帰らないのか。それを教えてほしい。

出席者) 日本を選んだのは、中国の学校で日本語が専門だったから。北海道で1年間働いて、

日本の文化が好きになり、また、日本語を生かしてもっと勉強したいと思い、大学に入った。そして、日本でひとり暮らしを始めた。日本での生活は、中国での生活より、自分の能力がつくような感じがする。全部のことを自分で処理しなければいけないから、同じ年の人よりも能力がつく。

出席者) 私は、小さいころからずっと日本の漫画やアニメなどを見ている。やっぱり日本語の響きがかわいいというか、日本の文化も日本人の性格も、とても勉強になるところがいろいろあり、日本を選んだ。でも、日本に来るためには大金が必要なので、ベトナム人で行ける人は余りいない。私もとても貧乏だったが、今回は幸いなことに山梨学院大学の奨学金をもらって日本に行けることになった。だから、この4年間、山梨県で仕事をして、本当に日本人からいろいろ勉強した。仕事もちゃんとするし、生活もきれいにしている。もちろん、どんな国にもいい人がいれば悪い人もいるが、割と優しい人のほうが多い。私が一番感動したのは、2011年の東日本大震災のとき。私は高校2年生だったが、いろいろなニュースがベトナムや世界中に流れた。本当に日本人の精神には頭が下がった。そこから日本語を勉強しなくなった。

あと、帰らずに日本に残りたい理由は、4年間では物足りないという感じで、もっともっと日本の職場や仕事の文化などを勉強したいから。

もう一つの理由は、やっぱり賃金。自分の頑張った分はちゃんと払ってくれるから。ベトナムでは、どんなに頑張っても、すごく高いとはいえない感じ。

議員) 母国から1人で来て日本に住んでいて、当然ストレスはたまると思う。そのストレスを、まだ学生だから、いろいろ遊びに行ったりして発散したい、リフレッシュしたいこともあると思うが、どういうことをしてリフレッシュをしているのか、伺いたい。

出席者) さっき言ったように、アルバイトや学校で疲れてしまうときが結構ある。勉強で自分の成績が足りないところとか、あと、バイト先で自分がうまく対応できないことが結構多かったが、毎日毎日我慢して、そういう状況を続けるのは絶対だめだと思う。私も、2年生の後期のころは、ずっとストレスを感じてだめだなと思った。でも、日本へ留学するということが自分が選んだ。自分の道を選んだ人は自分しかいない。だから、自分が頑張らないと、もっと頑張らないといけないと思います。やっぱり、私を一番応援してくれたのは家族。疲れたときに友達と話すとか、先生に相談もするが、家族に電話して、「お母さん、私、疲れた」みたいなことを言っても、私の母は「大丈夫だよ」とは言わない。「それではだめ」と言う。家族からの力をもらって成功したというか、最初の頃の私と今の私では、ちょっと成長していると感じられる。

やっぱり人間だから、ロボットでもないし、神様でもないし、ストレスや失敗もあるが、自分なりの方法を見つけて、あと、家族とか友達とか、自分の人間関係をよいものにしたらいいのではないかと思っている。

議員) 話を聞いていると、女性の方が多く中で、山梨県のことをみんな好きだよという意見が多く、将来こちらへ残るといふ方も多かった。山梨県は、人口流出で若い女性が少なくなっているから人口が減っていると言われていふ。そういった中で、将来、もし結婚するとき、相手として日本人はどうなのか。そこを教えてください。

議員) 日本人との結婚を将来少し考えていふ、そういう意見がある人、ちょっと意見をいただければ。

では、選択肢として日本で将来いい人がいたら結婚して日本に住んでもいいなと思える方は手を挙げていただきたい。3人。ありがとうございます。

議 員) 話を聞いていて、皆さんは、日本語の勉強もそうだが、日本に来て単にお金欲しい、早く時間が過ぎないかなということではなく、しっかりと積極的にポジティブな生き方をしていると、非常にエネルギーを感じた。

石和温泉は、県内でも宿泊施設、観光で泊まるところが多い。それで、インバウンドということで、大勢の外国人が来ている。一番が中国からのお客様で、韓国、ベトナムの方も大勢いらっしゃっているが、アラブやインドネシアなどからも大勢の方に来ていただくにはどうすべきか、知恵を絞っているところ。大勢の観光客が来るが、例えば、通訳をする人がいない。これから、日本では、外国人材として大勢の方に来てください、そして単純作業ではなくていろいろな高度な仕事をしてくださいと言っている。

観光の分野では、大勢の外国の方に来ていただくよう、今、キャッチフレーズみたいに言われているのは、おもてなしである。もっと大勢に来ていただくには、県や市の行政、また、ホテルもそうだが、こういう部分はちょっともったいない、こういうことをすればお客さんが来るのではないかというアイデアがあれば、お聞かせ願いたい。

議 員) 観光に来る外国の方はこういうことを喜ぶのではないか、日本でこういうことをしてあげたらいいのではないかという、何かアイデアや御意見がある方、ぜひ手を挙げて。

議 員) 石和温泉の旅館でも、観光客が来たときに通訳をしたり、こういうところがいいですよと案内をする方も、これからどんどんふえると思う。観光面での活性化、地域の活性化ということで、今現にそういう動きも出てきているので、そういった部分も含めて、こういうことをしたほうがいいよとか、聞かせていただくとありがたい。

議 員) 観光での通訳など、選択としてそういう仕事に就きたいとか、希望している方ももしいらっしゃったら。そういう希望はあまりない。

では、観光に来る外国人の方に、もっとこういうサービスをしたらいいとか、日本に住んでいて気づいたことなどはどうか。

出席者) キャッシュレス決済がどのくらい広がっているかわからないが、コンビニは多分、全部使えると思う。それがもっと広く使われるようになれば、インバウンドもふえるのではないかと思っている。

議 員) まさに的確な意見である。

議 員) 日本はおくれていて、ようやく国として取り組んでいるところである。

出席者) 石和温泉だけではなく、例えば、石和温泉が一番目であれば、次はどこに行ってみたいか。例えば、石和温泉と河口湖、富士急ハイランド、こういうテーマをつくってお勧めすればよいかなと思う。

出席者) やっぱり山梨県は、まず富士山があるということが一番いいと思う。あと、ほかにもとてもきれいな観光地とか、例えば昇仙峡、河口湖などの富士五湖とか、いろいろあるが、私のベトナム人の友達みんな余り知らない。

今、若者に接する方法として、一番簡単なのはSNS。だから、例えば石和温泉で、ホテルに泊まったお客さんがそのホテルについて何か投稿してくれれば景品をやるなどすれば、もっとSNSで広がっていくんじゃないかなと思う。

議 員) 先ほど冒頭でそれぞれ自己紹介していただいた。その中で、自分の人生だからというお話もあったが、自分の感覚が古いのかもしれないが、例えば、日本に来ているいろんな勉強をして、将来は国のためにとか、自分の田舎の発展のためにという目的が多少なりあるのだろうと思っていたが、聞いていると、自分の人生、自分の幸せのためという、そういう印象を受けた。日本に来て勉強する目標というか、目的はどういうところにあるのか聞きたい。

議 員) 皆さんの個人としての目的は今聞いたが、自分の出身である国に何かを還元するとか、バックできるような部分を考えている方はいるか。

議 員) 先週インドに行ってきた、田舎の大学だったが、そこで若い学生が日本語を本当に一生懸命勉強していた。将来は日本で先進的な技術を学んで、地元の発展のために頑張るんだという子供がいたので、そういう感覚かなと思った。
もう一つ、こういうテーマで今日は意見交換会を開いたが、山梨県議会議員がこうした場を設けて皆さんの意見を聞くということに対して、どのような感想をお持ちか。

出席者) 私たち留学生のレベルで、余りこういう方々に会うチャンスはない。この意見交換会では、いろいろ自分の思っていること、考えていることを言うチャンスになったと思う。やっぱりこういう意見交換会で、山梨県はこれからもっともっと外国人を受け入れていくという方向も感じられた。こういう場があれば、私たちも意見を申し上げることでもできるし、とても意味があると思う。

あと、さっきの質問だが、私は家族のために日本に来た。私はとても貧しくて、将来、お母さん、お父さんのために何とかしようと思って日本に来た。でも、来てから4年間を過ごして、友達をつくったり、いろんなところに行ったりしたのは私のためでもある。あと、日本語をしゃべれるのもかっこいいなと思って頑張っている。国際結婚とかも考えている。

議 員) 就職を控えている人たちは、山梨ではこういう企業に、具体的にこういう会社に入りたいということはあるか。

議 員) 山梨県でこういう仕事をしたい、具体的にこの会社に入りたいとか、希望はあるか。山梨県で仕事をするんだったらこういう仕事をしていきたいとか、こういう人たちと一緒にこういうことをしていきたいというように、何か具体的にあるか。

議 員) サッカーをやっている富士観光開発というところは、3部リーグで女子サッカーのチームをつくっている。今、2部昇格に向けていい選手を集めている。

ちょっと人気はなかったようだが、例えば、非常に東南アジアからの方々が多いで、観光における通訳とか、旅館やサービス業においては、おもてなしのことも含め、例えば外国人に向けて売店でどういう商品を買ったらよいのかとか。それはマーケティングにも関係してくることだが、旅館、ホテルなども外国の旅行者に対してPRをしたい。皆さんがいろいろ勉強していることも含めて、山梨の企業の中でも努力しようとしているところはある。だから、マーケティングもそういった部分で具体的に生かしていける。

こんなことが私にはできるとか、こういう企業に勤めてみたいということはないか。政治に関わる我々のヒントにも、逆に皆様方に対するヒントにもなる。

議 員) 私たちも、皆さんが日本に来て勉強する中で、日本で働きたいと思ってもらえるよ

うに、何を皆さんに提供できるかという部分を一生懸命考えてみたい。こういうサポートをしてくれたらもっとこういうことができるとか。先ほど桜本委員が言ったように、具体的にこういうことをしていきたい、それを語り合える場をもっとつくりたいとか。この日本、山梨で就職してもいいと思う中で、もっとこうしてほしいという要望があれば、ぜひ、この場で言っていただきたい。私たちも参考にしていきたいと思う。

議員) 山梨県には、約五、六十社が加盟しているIT関係の団体もある。IT関係だからといって、県外に就職しようということではなく、例えばソフトバンクの下請けの会社も山梨の中に育っているし、山梨県内の情報通信産業も、もっと細かく見てもらいたい。しっかり根づいている会社がいっぱいある。例えば、外国から来る人たちに対して、パッケージをこういうふうに変えたほうがいいのか、ベトナム人向けにはこういったパッケージのほうがいいのか、あるいは企業の商品の紹介やレシピについても提案するとか、皆様方がいろいろ経験してきたものが、グローバルにつながっていくと思う。今、山梨の企業も人手不足で、日本人や外国人という垣根を取り払っている企業もいっぱいあるので、そういった点も、ぜひ就職活動の中で細かく見てほしい。

今般、県でも、外国人の方々の就職に関する部署ができたので、こちらの大学の就職課との連携も深めていかななくてはならないと思う。県として予算も少なからず計上している。

議員) 今の話にもあったように、山梨にもたくさん会社がある。皆さんは、外国から日本に来て、この4年間、あるいは3年間山梨へ住んでおり、山梨のよき理解者である。この山梨でこれから就職をしようとするれば、自分が思っているよりも、皆さんは評価される。先ほどの通訳だとか、外国人向けの商品はこういうのがいいとか、そうした経験がすごく生きる仕事は、山梨にたくさんある。ぜひ、積極的にいろいろなところにアンテナを張って、この山梨県で、地域を盛り上げていく一員として一緒にやっていければと、私たちも思っている。

そろそろ時間となったので、ここで意見交換会を終了とさせていただく。御協力ありがとうございました。



意見交換会の様子